

## 会誌「数式処理」の目指すもの

中川重和\*

倉敷芸術科学大学

雑誌「数式処理」の投稿規定には、掲載記事の内容として、広い意味で数式処理の発展に寄与するものをすべて含むこと、および掲載記事の種類は、論文、レター、特集論文、解説、その他などとすると規定されています。

ところで、数式処理研究の3本柱は基礎理論、システム開発、応用と言われており、本学会の会員の皆様はいずれかの分野もしくは全てに興味をもたれていると思われまふ。その意味で、雑誌「数式処理」が取り扱うべき記事は、基礎理論、システム開発、応用の全てを均等に取り扱い、会員に有益でありかつ、啓蒙活動をも包含した内容の記事が理想であると考えながら、第15巻1号より編集に携わったつもりです。

実際、上記のような観点で編集できたかどうか、この場を借りて振り返ってみたいと思います。主だった掲載記事を以下に列挙します：奨励賞論文(15-1)、論文2編(15-2)、特集記事[教育における数式処理](15-2)、大会報告(15-2)、奨励賞論文(16-1)、教育分科会報告(16-1)、システム分科会報告(16-1)、レター1編(16-2)、特集記事[統計科学と数式処理](16-2)、大会報告(16-2)、システム分科会報告(17-1)、教育 Mathematica 合同分科会報告(17-1)、大会報告(17-2)、レター1編(18-1)、システム分科会報告(18-1)、特集記事[数式処理システム ~いま使うならこれだ~](18-2)、大会報告(18-2)。すぐにわかることは、研究論文やそれほほ同等のレター論文の掲載数が少ないことです。この点については、会員の方々への論文投稿の勧誘活動が不足していたことが一因でもあり、反省しなければなりません。一方で、特集記事を編集できたことは良かった点ですが、3本柱の観点からは特集内容にやや偏りが生じたことも否定できません。

まもなく学会設立20周年を迎えようとしている現在、「数式処理」の果たすべき役割を今一度考える時期に差し掛かっていると感じております。

---

\*nakagawa@cs.kusa.ac.jp